

1. 環境教育・環境学習の現状

先人が大切に守ってきた尊い自然環境を引き継いでいくためには、一人ひとりが環境問題に関心を持ち、環境保全に対する意識を高め、できるだけ環境に負荷をかけない生活をするなど、環境に配慮した意識・行動をとることが大切です。

こうした生活の様式や習慣などを幼い頃から意識付けすることはとても重要と考え、自然体験学習や環境講座など地域に根ざした環境教育・環境学習を推進しています。環境教育・環境学習は、地域住民が一体となって環境への取り組みを推進するための基盤となります。

環境学習や環境活動の拠点である環境学習室「エコひろば」では、環境啓発の講座や小・中学校への環境教育を支援する事業、環境に係る情報提供など、様々な事業を展開しています。

2. 環境教育・環境学習の取り組み

(1) 環境学習の推進

ア. 環境の拠点

市民・事業者が環境について関心を持つきっかけづくりとなるよう、また、環境保全活動を行っている団体などが活動を展開するための拠点として、17年1月に環境学習室「エコひろば」を開設しました。

「エコひろば」では、環境に関わる講座や教室などを開催し、入場者では21年度と比べて約4,000名増加し、延べ17,209人が入場されました。

なお、環境に関する図書や物品の貸し出しなども行っています。



エコひろばのぞうり教室

イ. 人材育成と環境指標

(ア) 環境診断士と環境指標「ちえっくどう」の普及・活用



環境フェスティバルでの環境診断

市民・事業者が自ら環境について調べ、行動していくための手引書として、15年に身近な環境診断「ちえっくどう」を策定しました。この「ちえっくどう」を用いて環境診断を行う際に、指導・助言するための人材として14年度から環境診断士を養成し、49名が活躍しています。

また、環境診断士は、環境市民会議のメンバーとして地域に根ざした環境保全活動や小学校を対象に実施している環境教育支援等で活躍しているほか、環境フェスティバルでは、302名の来場者を対象に身近な環境診断（「ちえっくどう」簡易版）を実施し、その結果からエコアドバイスも行いました。

(イ) 環境学習リーダー

環境市民会議の活動を適切に支援する人材として、環境診断士と同様、14年度から環境学習リーダーを養成しています。22年度は第6期の環境学習リーダー養成講座を実施し、27名を環境学習リーダーとして認定しました。認定後、各地区の環境市民会議に分かれてその地区の特色を生かした環境保全活動を行っていきます。

(2) 環境学習・啓発活動の展開

農業体験では、7月31日に行った親子農業発見ツアーに親子13組、26名が参加、また、大根作り体験では、8月21日の種まき、9月25日の間引き、10月30日の収穫と3回に分けて行った合計39組延べ86名が参加しました。

林業体験では、12月4日に行った間伐と椎茸の植菌作業に20名が参加しました。

また、町会・自治会、多摩川漁協八王子支部、河川管理者、教育機関および本市で組織する『八王子浅川子どもの水辺協議会』では、9月4日に浅川河川敷にて「水辺のかんきょう教室」を開催し、小学生など141名が参加しました。



自然体験講座で植物観察会



ごみの減量とリサイクル

そのほか、身近な自然環境を体験してもらおうと、市と環境市民会議が協働で「自然体験講座」を計9回実施し、延べ286名が参加しました。また、学習会などに市の職員が講師として伺い、講義や説明をする「はちおうじ出前講座」の環境関連の講座では、「自然は友だち」や「サルとの知恵くらべ」など8講座を開講しました。特に、「ごみの減量とリサイクル」では、資源物の戸別回収とプラスチックの回収品目の拡大にともない、377回で17,605名と多くの方が参加しました。

■環境分野の主な出前講座

講座名	内容	参加人数
ごみの減量とリサイクル	ごみ・資源物の分別、発生抑制の説明およびDVD上映	17,605人
自然は友だち	本市のみどりや生息・生育する動植物を紹介し、みどりを守ることの大切さと、身近なみどりの抱える問題をわかりやすく説明	50人
サルとの知恵くらべ	東京の小動物の生態およびサルの生活（小学生対象）	129人

また、「はちおうじの環境をみる・きく・考える」をメインテーマに産官学民の協働・連携のもと、6月5日に「2010 八王子環境フェスティバル」を八王子駅北口西放射線ユーロードにて開催し、延べ40,000人の来場者でにぎわいました。



2010八王子環境フェスティバル

(3) 環境教育の充実

ア. 「学校教育における環境教育基本方針」に基づく取り組み

学校教育において環境教育を一層推進するため、「学校教育における八王子市環境教育基本方針」を策定し、17年6月に公表しました。この基本方針は、子どもたちが身近な環境とふれあいから環境に関心をもち、自然を大切にする心を育むことにより、主体的に環境に関する問題を解決できる行動力をもった人になるよう育成することを目標としています。

この目標を実現させるための取り組みとして、20年度からは全校において、環境教育全体計画および年間指導計画を策定して、環境教育の実践を行っています。また、21年度には、小中一貫教育指導資料に環境教育の実践事例等をまとめ、全教員に配布しました。

22年度には、「学校教育における八王子市環境教育基本方針（第二次）」を作成し、学校におけるエネルギー・環境教育の充実に努めました。

イ. 環境教育副読本の作成

「学校教育における八王子市環境教育基本方針」に規定された環境教育目標である「環境問題に関心をもち、環境問題を解決する行動力をもった人の育成」を実現するため、『八王子市のかんきょう』を作成しています。「緑」、「資源」、「水」、「大気」の4つの分野にわけ、児童が自ら調査し、まとめていけるような副読本で、毎年市立小学校の4年生に配布しています。



八王子市の環境教育副読本

また、ごみ減量・リサイクルの意識を育てるために『きれいなまち八王子』を作成するとともに、川への関心を高めるために『川と友だちになるノート』を作成し、毎年市立の小学4年生に配布しています。

学校ではこれらの副読本を活用し、環境教育の充実に努めています。

(4) 地域との連携による環境教育

「エコひろば」では、市立の小・中学校の総合的な学習の時間などを使って行われる環境学習において、環境教育支援事業を行っています。これは、地域特性を活かして活動している知識・経験豊かな環境市民会議をはじめ、環境学習リーダーおよび環境診断士を紹介する制度で、22年度は、13校で実施し、延べ420名が支援を行いました。



川に出て環境教育支援事業

(5) 環境情報の提供

ア. 「八王子市環境白書」の発行

環境保全等に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、市の環境の現状および環境基本計画に基づく施策の実施状況を明らかにしたもので、毎年発行しています。

また、これらに関わるデータは、データ集として同時発行しています。

イ. 「環境報告書」の発行

市内にある6ヶ所の施設について、事業活動における環境配慮の取り組み状況に関する説明責任を果たすため、環境配慮の方針、目標、取り組み内容および実績を公表しています。

■環境報告を発行している施設

1	北野清掃工場	4	北野衛生処理センター
2	館清掃工場	5	北野下水処理場
3	戸吹清掃工場	6	戸吹不燃物処理センター

ウ. ホームページによる環境情報発信

市のホームページ(<http://www.city.hachioji.tokyo.jp/>)において、環境情報を提供しています。

エ. 環境学習室「エコひろば」

「エコひろば」でもホームページ (<http://www.ecohiroba.jp/>) を開設し、講座の日程や環境教育支援事業の状況など、環境教育・環境学習に関わる情報を中心に提供しています。

3. 評価

ここでは、「教育・学習」の分野についての評価結果を掲載しています。

(評価の方法については13ページを参照)

評価 : ★★ ほぼ目標を達成した

<市内部での総括評価>

出前講座をはじめ、農林業体験や自然体験の講座など、市民にとって身近な環境を知っていただく重要なイベントとして確立してきており、年々参加者が増えていることは大きな成果であり、評価できる。また、全職員に対するL A S - Eの研修や教員に対するパワーアップ研修は環境教育の充実を図るための重要な研修であることから、引き続き実施すること。なお、環境市民会議の活動の活性化および会員の拡充は喫緊の問題であり、その支援策としてチラシや広報誌などを使ってPRを行っているが、活動のマンネリ化やPR不足などから実質的な拡充には至っていないことから、PRの対象者や情報提供先を拡大するなど、啓発の強化を図ること。

<環境推進会議での相互評価>

教育・学習の分野については着実に推進されていると評価する。

河川環境が改善され、副読本教材に掲載されている生きものと実態に相違が生じている。市民による調査等も参考にしながら、現状確認した上で内容を見直していただきたい。

環境市民会議は発足から来年で10年を迎えるが、このままでは活動の継続が危ぶまれる状況も見受けられることから、枠組みやあり方などを見直していくこと。